

千九百三十年倫敦海軍條約

起草推移調書

日本外交文書

ロンドン海軍會議
予備交渉・条約説明書

不許複製

Documents on
Japanese Foreign Policy

The Preliminary Negotiations
of the London Naval Conference
and the Explanatory Notes of
the London Naval Treaty.

昭和五十七年三月二十日印刷
昭和五十七年三月三十一日發行

外務省 編纂
外務省 發行

東京都中央区湊二丁目二番四号
印刷所 株式会社第一印刷所

外務省

歐米局第二課

緒 言

- 一、本書ハ千九百三十年倫敦海軍條約起草ノ推移ヲ出來ル限リ完全ニ表ハサ
ムトスルモノナルガ遺漏ナキヲ保セズ
- 二、會議終期即四月十日日英米首席全權會合ノ席上米首席全權「スティム
ン」ヨリ附屬書第一號所載ノ條約骨組案ヲ提示シ日英首席全權ノ同意ヲ
得翌十一日日英米佛伊五國首席全權會議ノ席上ニ於テ英首席全權ヨリ之
ヲ披露シタリ
該骨子ニ基キ英國側ヨリ一案ノ提出アリタルモ同案ハ右骨組案ヲ其儘參
酌スルコトナク殆ド其ノ全部ヲ制限方式ニ充テタルガ如キモノナリシヲ
以テ反對出デ附屬書第二號ノ如キ第二次條約骨組案ヲ作成シ之ニ基キ英
國委員「マルキン」ニ條約案ノ起草ヲ委嘱シタリ
今次軍縮條約ハ該「マルキン」起草ニ係ル所謂「マルキン」案ヲ基礎トシテ
四月十一日ヨリ同二十一日迄ノ間ニ成レルモノナリ、因テ本書ニ於テモ
「マルキン」案ヲ基礎トシテ案文ノ修正ヲ記載スルコトトシタリ案文ハ
出來得ル限リ英文ニヨリタルモノノ不可能ナル個所ニ付テハ佛文ニヨレ
リ
- 三、本書ハ左右兩欄ニ新舊二案ヲ對照シ右欄ノ舊案中「イタリック」ニテ印刷
セル部分ハ修正セラレタル部分ヲ示シ其ノ直後ニ【】内ニ「ゴシック」ニ
テ修正文ヲ記スルコトトシタリ但單ニ「イタリック」ニ印刷セラレタルノ
ミニテ其ノ直後ニ【】内ニ「ゴシック」ニテ修正文ヲ掲ケサルモノハ削除
セラレタル部分ヲ示ス
又「コムマ」「ビリオド」等ニシテ新ニ付加セラレタルモノハ【.】【,】等ト
シ之ヲ削除セル場合ニハ(・)(,)等トセリ
- 四、尙本書ニ關聯シ千九百三十年倫敦海軍條約説明書(極秘)ヲ參照アリタシ

目 次

	頁
◎前 文	1
I. 我 方 案	1
II. 四月十七日日英米起草委員内談ノ結果起草セル案文	1
II. 参考——「ワシントン」條約前文	1
III. 日英米三國案ニ對スル佛國對案(佛文).....	2
III. 日英米三國案ニ對スル佛國對案(英文).....	2
IV. 米佛妥協案文(英文及佛文).....	3
IV. 日英米三國案トノ比較	3
V. 四月十九日佛案文	3
VI. 決定條文(英文及佛文).....	3
VI. 米佛妥協案トノ比較	3
◎第一編	4
△第 一 條	4
I. 「マルキン」案.....	4
II. 四月十四日案	5
II. 「マルキン」案トノ比較	5
III. 四月十六日案	5
III. 四月十四日案トノ比較	5
IV. 四月十七日案	6
IV. 四月十六日案トノ比較	6
V. 四月十九日案	7
V. 四月十七日案トノ比較	7
VI. 決定條文	7
VI. 四月十九日案トノ比較	7

△第 二 條.....	8
I. 「マルキン」案.....	8
II. 四月十三日案.....	9
III. 四月十五日案.....	11
III. 四月十三日案トノ比較.....	11
IV. 四月十六日案.....	13
IV. 四月十五日案トノ比較.....	13
V. 四月十七日案.....	15
V. 四月十六日案トノ比較.....	15
VI. 四月十九日案.....	17
VI. 四月十七日案トノ比較.....	17
VII. 決定條文.....	20
VII. 四月十九日案文トノ比較.....	20
△第 三 條.....	22
I. 「マルキン」案.....	22
II. 四月十四日案.....	23
II. 「マルキン」案トノ比較.....	23
III. 四月十五日案.....	24
III. 四月十四日案トノ比較.....	24
IV. 四月十六日案.....	25
IV. 四月十五日案トノ比較.....	25
V. 四月十七日案.....	26
V. 四月十六日案トノ比較.....	26
VI. 四月十九日案.....	27
VI. 四月十七日案トノ比較.....	27
VII. 決定條文.....	27
VII. 四月十九日案トノ比較.....	27
△第 四 條.....	28
I. 「マルキン」案.....	28

II. 四月十四日案.....	28
II. 「マルキン」案トノ比較.....	28
III. 四月十五日案.....	29
III. 四月十四日案トノ比較.....	29
IV. 四月十六日案.....	29
IV. 四月十五日案トノ比較.....	29
V. 四月十七日案.....	29
V. 四月十六日案トノ比較.....	29
VI. 四月十八日案.....	29
VI. 四月十七日案トノ比較.....	29
VII. 四月十九日案.....	30
VII. 四月十八日案トノ比較.....	30
VIII. 決定條文.....	30
VIII. 四月十九日案トノ比較.....	30
△第 五 條.....	31
I. 「マルキン」案.....	31
II. 四月十四日案.....	31
II. 「マルキン」案トノ比較.....	31
III. 四月十六日案.....	32
III. 四月十四日案トノ比較.....	32
IV. 四月十八日案.....	32
IV. 四月十六日案トノ比較.....	32
V. 四月十九日案.....	32
V. 四月十八日案トノ比較.....	32
VI. 決定條文.....	33
VI. 四月十九日案トノ比較.....	33
◎第二編.....	33
△第 六 條.....	33
I. 「マルキン」案.....	33

II. 四月十四日案	34
II. 「マルキン」案トノ比較	34
III. 四月十五日案	35
III. 四月十四日案トノ比較	35
IV. 決定條文	36
IV. 四月十五日案トノ比較	36
△第 七 條	36
I. 「マルキン」案	36
II. 四月十四日案	37
II. 「マルキン」案トノ比較	37
III. 四月十五日午前案	38
III. 四月十四日案トノ比較	38
IV. 四月十五日午後案	38
IV. 四月十五日午前案トノ比較	38
V. 四月十六日案	39
V. 四月十五日午後案トノ比較	39
VI. 決定條文	40
VI. 四月十六日案トノ比較	40
△第 八 條	41
I. 「マルキン」案	41
II. 四月十四日案	43
II. 「マルキン」案トノ比較	43
III. 四月十五日案	44
III. 四月十四日案トノ比較	44
IV. 決定條文	45
IV. 四月十五日案トノ比較	45
△第 九 條	47
I. 「マルキン」案	47
II. 四月十五日案	47

II. 「マルキン」案トノ比較	47
III. 四月十六日案	47
III. 四月十五日案トノ比較	47
IV. 決定條文	48
IV. 四月十六日案トノ比較	48
△第 十 條	48
I. 「マルキン」案	48
II. 四月十五日案	49
II. 「マルキン」案トノ比較	49
III. 四月十六日案	50
III. 四月十五日案トノ比較	50
IV. 決定條文	51
IV. 四月十六日案トノ比較	51
△第 十 一 條	52
I. 「マルキン」案	52
II. 四月十五日案	52
II. 「マルキン」案トノ比較	52
III. 決定條文	52
III. 四月十五日案トノ比較	52
△第 十 二 條	53
I. 「マルキン」案	53
II. 四月十四日案	56
III. 四月十五日案	57
III. 四月十四日案トノ比較	57
IV. 四月十六日案	58
IV. 四月十五日案トノ比較	58
V. 決定條文	60
V. 四月十六日案トノ比較	60

△第十三條.....	140
△第一附屬書	61
I. 「マルキン」案.....	61
II. 四月十五日案	63
II. 「マルキン」案トノ比較	63
III. 決定條文	65
III. 四月十五日案トノ比較	65
△第二附屬書	67
I. 「マルキン」案.....	67
II. 四月十六日案	72
II. 「マルキン」案トノ比較	72
III. 決定條文	80
III. 四月十六日案トノ比較	80
△第三附屬書	88
I. 「マルキン」案.....	88
II. 四月十四日案	91
III. 四月十四日案ト決定文トノ比較	92
◎第三編	96
△前 文	96
I. 「マルキン」案.....	96
II. 四月十八日案	97
II. 「マルキン」案トノ比較	97
III. 決定文	97
III. 四月十八日案トノ比較	97
△第十四條.....	97
I. 「マルキン」案.....	97

II. 四月十四日案	98
II. 「マルキン」案トノ比較	98
III. 四月十五日案	98
III. 四月十四日案トノ比較	98
IV. 四月十六日案	98
IV. 四月十五日案トノ比較	98
V. 決定條文	99
V. 四月十六日案トノ比較	99
△第十五條.....	99
I. 「マルキン」案.....	99
II. 四月十四日案	99
III. 四月十五日案	100
III. 四月十四日案トノ比較	100
IV. 四月十六日案	101
IV. 四月十五日案トノ比較	101
V. 決定條文	102
V. 四月十六日案トノ比較	102
△第十六條.....	102
I. 「マルキン」案.....	102
II. 四月十四日案	104
II. 「マルキン」案トノ比較	104
III. 四月十五日案	106
III. 四月十四日案トノ比較	106
IV. 四月十六日案	107
IV. 四月十五日案トノ比較	107
V. 決定條文	108
V. 四月十六日案(×)及「マルキン」案(\$)トノ比較.....	108
△第十七條	111
I. 「マルキン」案.....	111

II. 四月十五日案	111
III. 四月十六日案	112
III. 四月十五日案トノ比較	112
IV. 決定條文	112
IV. 四月十六日案トノ比較	112
△第十八條	112
I. 「マルキン」案	112
II. 四月十四日案	114
II. 「マルキン」案トノ比較	114
III. 四月十五日米國提出案文	115
III. 四月十四日案トノ比較	115
IV. 決定條文	116
IV. 米案トノ比較	116
△第十九條	117
I. 「マルキン」案	117
II. 四月十四日案	117
II. 「マルキン」案トノ比較	117
III. 決定條文	118
III. 四月十四日案トノ比較	118
△第二十條	118
I. 「マルキン」案	118
II. 四月十四日案	119
II. 「マルキン」案トノ比較	119
III. 決定條文	121
III. 四月十四日案トノ比較	121
△第二十一條	122
I. 「マルキン」案	122
II. 四月十六日英米側提案	122
III. 四月十六日案ノ修正(四月十六日午前)	122

IV. 我方修正案	123
V. 我方ノ修正案(四月十六日午後)	123
VI. 決定條文	124
VI. Vトノ比較	124
◎第四編	125
△第二十二條	125
I. 「マルキン」案	125
II. 四月十四日案	126
II. 「マルキン」案トノ比較	126
III. 四月十七日案	127
III. 四月十四日案トノ比較	127
IV. 決定條文	128
IV. 四月十七日案トノ比較	128
◎第五編	129
△第二十三條	129
I. 「マルキン」案	129
II. 留保條項ニ關スル英米案(三月十二日)	129
III. 我方案	130
IV. 日英米案	130
V. 佛提案	130
VI. 第二次佛提案	131
VII. 決定條文	132
VII. 第二次佛提案トノ比較	132
△第二十四條	133
I. 「マルキン」案	133
II. 四月十八日案	133

II. 「マルキン」案トノ比較	133
III. 四月十九日案	135
III. 四月十八日案トノ比較	135
IV. 決定條文	136
IV. 四月十九日案トノ比較	136
△第二十五條	137
I. 「マルキン」案	137
I. 四月十九日案トノ比較	138
III. 決定條文	139
III. 四月十九日案トノ比較	139
△第二十六條	139
I. 「マルキン」案	139
II. 決定條文	139
II. 四月十九日案トノ比較	139
◎附屬書第一號（第一次條約骨子）	141
◎附屬書第二號（第二次條約骨子）	142
◎附屬書第三號（「マルキン案」）	143
◎附屬書第四號	157
I. 「マシグリ」案原案	157
II. 「マシグリ」修正案	158
◎附屬書第五號（英國案）	160
◎附屬書第六號（米國案）	168

前 文

I. 我方案

The President of the United States of America, the President of the French Republic, His Majesty the King of Great Britain, Ireland and the British Dominions beyond the Seas, Emperor of India, His Majesty the King of Italy, His Majesty the Emperor of Japan ;

Considering that, in concluding the Pact of Paris of August 27th, 1928, they declared that war should not be used as an instrument of national policy and further agreed that all disputes and conflicts should be settled by pacific means ;

Being convinced that the arresting of the competition and the lightening of burdens in naval armament will advance the peaceful and friendly relations now existing among their respective countries and thus contribute to the maintenance of the general security ;

Animated by a sincere desire to further the aims and ideals of the Washington Treaty of Naval Disarmament of 1922 and to make substantial reduction in all the categories of their naval equipment ;

Have decided to conclude a Treaty and for that purpose have appointed as their respective Plenipotentiaries :—

(註) 本案ハ我方ニ於テ用意シ置キタルモノニテ別ニ他關係國ニ示サザリキ

II. 四月十七日日英米起草委員内談ノ結果起草セル案文

“The President of the United States of America, the President of the French Repu-

II. 参考:「ワシントン」條約前文

“The United States of America, the British Empire, France, Italy and Japan ;